



本日のテーマ「お仕事あれこれ」

実施日：2021年3月26日

1 「きなりの雲」

石田千／著 2012年 講談社 【Nイ】

多編み物作家のさみ子は四十過ぎて失恋し、
ショックで不摂正な生活を送ったために体調
くずしてしまいます。少しずつ生活をとりもどすなかで、
日常が柔らかく優しい文で描かれている物語です。



2 「図説大江戸おもしろ商売」

北嶋廣敏／著 2006年 学研 【672.1】

江戸は全盛期に100万人を超える人がいたそうです。
これだけ人がいたから、どんなことでも仕事になったそうです。
付木売り、て何て売っているの？ 歯カ・枕返し、てどんな
仕事？ ももんじ屋、て何屋こん？ 時代劇にはでてこない仕事がい
っぱいあります。



3 「作家の収支」

森博嗣／著 2015年 幻冬社 【901モ】

作家がいくら稼いでいるのか、気になりますか？
ミステリ作家である著者が、自分の収支を赤裸々に
明かしたのが、この本です。
パソコンと書くネタさえあればやってける文筆業、て
やっぱりいいよね……。



4 「総選挙ホテル」

桂望実／著 2016年 KADOKAWA 【Nカ】

つぶれてしまいそうなホテルが舞台のお話です。
新社長が次々とうらぶ奇策の数々。それによって
ホテル、社長、支配人、そして従業員が、どのように
変わっていくのか、お楽しみください。



5 「女ひとり海外で働いてます！」

ひうらさとる、NHK取材班／著 2014年 KADOKAWA
【Y334.4】

海外で働きたいと強い意志を持っていた女性、たま
にま行、た旅行先で縁があつて…という女性。
動機は様々であつて、共通点は、パワフル!!



6 「霧のむこうのふしぎな町 地下室からのふしぎな旅 天井うらのふしぎな友だち」

柏葉幸子／作 タケカワこう／絵 2019年
講談社 【Nカシ】

はたらかざる者、食うべからず!! 夏休み、霧の谷に
やってきた6年生のリナは、ふしぎな町で“はたらくこと
になりました。「千と千尋の神隠し」にも影響を与えた
物語を“そうです。収録された3作品とも、子供の頃に



7 「「箇条書き手帳」でうまくいく」大好きだったお話です。

Marie／著 2017年 ディスカヴァー・トゥエンティワン
【002.7ビジ初】

やることが多すぎて頭がパンクしそう! そんな人におススメな1冊です。
箇条書きと記号を使うシンプルな手帳、始めてみ
ませんか?



8 「上流階級」1～3 (3は近日所蔵予定)

高殿円／著 2013年～ 光文社 【Nタ】

百貨店(デパート)の外商部のお仕事本です。バツイチ
37歳の女性・鮎島静緒が、いろいろな顧客のニーズに
応えようと必死にもNOとは言わず頑張る姿は
とてもカッコイイです。



9 「游 More デザイン館」

福田繁雄／著 1985年 岩波書店 【727.0】

「福田繁雄のポスター」

福田繁雄／著 1982年 光村図書 【727.6】

2020年3月末に閉店した天神の商業ビル「天神コア」!
このビル屋上にロゴマークを飾った巨大なネオン広告塔を
覚えていませんか? このロゴを制作したのは福田繁雄さんです。
「日本のエッセイ」と呼ばれた作品をお楽しみ下さい。

10 「なぜ僕らは働くのか」(投稿箱のアンケートより)

池上彰／監修 2020年 学研プラス 【Y366/シロ】

「働く理由をわかりやすく教えてくれた本です。」

11 「舟を編む」(投稿箱のアンケートより)

三浦しをん／著 2011年 光文社 【N三】

「何気なく使っていた辞書が、どのようにつくられているのか、
知ることから面白。この本を読んでから、私も言葉の
意味を深く知ることができたり、この言葉の使い方は正しいのかと考えるようになった。」

